



2015年 9月 4日
マツダ株式会社
OJSC ソラーズ

マツダとソラーズ、ウラジオストクの合弁会社における エンジン工場設立に向けた覚書を締結

マツダ株式会社(代表取締役社長兼CEO:小飼 雅道 以下、マツダ)と、OJSCソラーズ(Sollers)社(CEO:ヴァディーム・シュヴェツォフ 以下、ソラーズ)は、ロシア極東連邦管区プリモリスキー州ウラジオストク市にある両社の合弁会社「MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus(マツダソラーズマヌファクトゥリングルース 以下、MSMR)」のエンジン工場設立に向けた検討を開始することを、ロシア連邦政府と合意し、本日、覚書を締結したことを発表しました。

これにともない、本日、ウラジオストク市において、原田親仁駐ロシア日本国特命全権大使の立ち会いのもと、マツダの小飼社長、ソラーズのシュヴェツォフCEOおよびロシア連邦政府産業貿易省のグレブ・ニキティン第一副大臣などの関係者が覚書に調印しました。その後、ロシア連邦政府のウラジーミル・プーチン大統領が調印式の参加者を祝福しました。

調印にあたって、マツダの小飼社長は、「2012年10月の操業開始以来、MSMRはこれまでに約8万台のマツダ車を生産し、ロシア全土のお客さまにお届けしてまいりました。当地で生産された高品質なマツダ車は、お客さまから高い評価をいただき、マツダブランドをこの広大なロシア各地に広める大きな力となっています」と述べました。

さらに、「当地における雇用の創出とものづくり文化の育成を通じて、地域に貢献することができ、大変嬉しく思っています。これも、ソラーズという優れたパートナーの存在に加え、ロシア連邦政府およびプリモリスキー州政府、そして日本国政府の多大なご支援のたまものと受け止めております。今後もマツダは、当地における自動車産業に貢献してまいります」と加えました。

また、ソラーズのシュヴェツォフ CEO は、「マツダとの協業をさらに進展させ、マツダの高い自動車生産技術力と、我々の持つ地域への強みを生かし、全社員が一丸となって、当地の自動車産業のレベルをさらに高めていけることを大変光栄に思います」と語りました。

マツダとソラーズは、本年中の正式契約締結に向け、ロシア連邦政府との協議を進めてまいります。

以上